

みんなのスペース

哲学から考える

哲学はなかなか好きになれないし、理解できないところがたくさんありました。フランスの哲学者、デカルトの著書『方法序説』の第4部に「我思う、ゆえに我あり」という言葉があります。

「てんでんこ」とは「てんでんばらばらに」の意味で災害時の避難のとき、人にかまわず必死で逃げるという「自分自身の命を大事に下さい」と、デカルトの「我思う、ゆえに我あり」は繋がるところがあるのではないかと思います。

つまり、自分の命を大切にします。だからこそ自分の命があると考えます。自分の命を大切にすることで他者のことも大切にすることができるのではないのでしょうか。哲学の言葉からいろいろなことを考えてみることで哲学が少しだけ好きになりました。

小林 秀人(大浦・27)

ボールを追った15才

戦後の教育改革で6・3制になりました。私たちは「1947年」昭和22年4月から新制中学校1年生、編成で教室が足りなくなり教師「代教」たちも大変な労苦の時代でした。

時がたち、放課後、校庭から生徒たちの声が聞こえてくるようになりました。男子生徒は野球、女子生徒はバレー。幸いにバレーを教える教師に恵まれ、無知な私たちにルールを教えてくれてありがたかったです。

当時は部活動がなかった時代でしたが、今で云う自主活動かな、バレーコートで夕暮れまで「ワンツートのラスト」とボールを追った頃、なつかしいなあ。教師をときどき思いだして和んでいます。

また、大槌町内中学校バレー大会があり、各校から参加、その当時は9人制でした。私も中衛のレフトに選ばれ、素直に嬉しかったです。姉からは試合ではくブルマを作ってもらったことなど、ボールを追った15歳、あの頃には戻れないが、せめて思い出だけは。ともに競った仲間たちも恙なく暮らしているのかなあ。86歳になり、体力も気力も失せてもボールを追った若さ、思い出は走馬灯のように脳裏を駆けめぐっています。

菊地 サカエ(織笠・86)

わたしのゆめ

おおきくなったら、ケーキ屋さんになって、おかあさんにつくってあげたいです。



こん ゆきな ちゃん
(織笠保育園・5)

皆様のご投稿をお待ちしています

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392(住所不要)山田町役場総務課情報係(☎82-3111 内線416)へどうぞ。

やまだ文芸広場

此々に来て 鳥のさえずる 声もなく
ただ人だけの 声のみぞしる

昆 ユリ(織笠・89)

導かれし事 多かりき 昔ばなし
改心をした 「ごんぎつね」のごん

中着の 紐をキュッと 絞る時
だあれも知らない 世界が隠る

いっちゃん(豊間根・69)

嫌われることより 忘れられること
恐れて啼くか 濁声カラス

誰にでも 軽く微笑む 人の名を
夢より覚めて 思ひ起こせず

内館 洋一(飯岡・78)

昭和、平成歩みきりそして今四季の郷で
ラブされてこれからも歩む令和を

佐藤 やす子(大槌・70)

「お彼岸・・・」
お彼岸に彼岸団子を添えて、
花添えて。

シユガー。(船越・43)

世界中が 疫病に
心うばわれて 人とのつながり 失せていく

菊地 サカエ(織笠・86)